

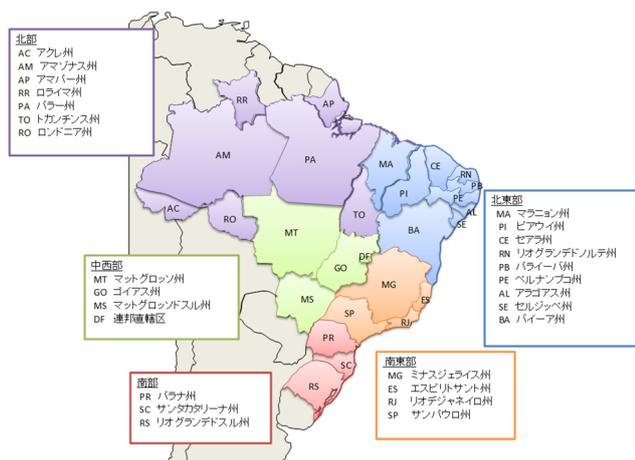
南米[ブラジル]



1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農業センサス(2017年)によると、農業経営体507万戸の所有面積は3億5129万ヘクタール(国土面積全体の41%)であり、このうち農耕地が6352万ヘクタール(農用地面積の18%)、牧草地が1億5950万ヘクタール(同45%)および森林が1億1523万ヘクタール(同33%)となった(図1、表1)。

図1 ブラジルの行政区分



資料:ブラジル地理統計院(IBGE)のデータを基に機構作成

表1 農場数と農場面積の推移

(単位:千戸、千ha)

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,073
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	351,290

資料:ブラジル地理統計院(IBGE)

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)によると、2022/23年度(10月~翌9月)には7855万ヘクタールが穀物生産に利用され、その生産量は3億1981万トン(前年度比17.3%増)となった。主要生産品目は大豆およびトウモロコシであり、これらで全穀物生産量の9割を占め、いずれも世界有数の生産量を誇る。

畜産分野では、22年の牛肉生産量は米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国に次ぐ第2位、豚肉生産量は中国、EU(英国を除く27カ国)、米国に次ぐ第4位となった。また、輸出量は牛肉、鶏肉が世界第1位、豚肉がEU、米国、カナダに次ぐ第4位となった。このようにブラジルは、牛肉、鶏肉、豚肉いずれの生産量、輸出量とも世界で上位を占めている。

22年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出額は、1589億米ドル(前年比31.8%増)となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は1416億米ドルであり、農業部門が同国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

2 畜産の動向

(1) 肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が主体であり、主に耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が飼養されている。近年は、トウモロコシや大豆を中心に穀物などの作付面積が増加する一方、放牧地面積が減少傾向にあることなどから、仕上げ期に穀物を

給与するフィードロットによる飼養形態も拡大している。

家畜衛生について見ると、ブラジルでは長年、口蹄疫対策に取り組んできた結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局(WOAH)から同国初のワクチン非接種清浄地域のステータス認定を取得し、さらに21年5月にはワクチン非接種清浄地域

としてその他4州の全域と2州の一部が追加認定^(注1)された。なお、これ以外の地域は、ワクチン接種清浄地域となっている(図2)。ブラジル農牧省(MAPA)は、17年10月に策定した口蹄疫の撲滅および予防に関する国家戦略(PE-PNEF)で、26年までにブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域の認定を目指すとしている。

また、BSEについては、24年6月時点でWOAHより「無視できるリスク」の国として認定されている。なお、ブラジルでは12年、14年、19年および21年^(注2)に高齢牛で非定型BSEが確認された。

(注1) WOAHは21年5月、ブラジル南部パラナ州、リオグランデスル州、北部アクレ州、ロンドニア州全域および北部アマゾナス州と中西部マットグロッソ州の一部を口蹄疫ワクチン非接種清浄地域として認定した。

(注2) なお、23年2月にも北部パラ州で非定型BSEが確認されている。

図2 口蹄疫ステータス(2024年6月時点)



■ :口蹄疫ワクチン非接種清浄地域
 ■ :口蹄疫ワクチン接種清浄地域

① 飼養動向

ブラジル地理統計院(IBGE)によると、2022年の牛飼養頭数は、2億3485万頭(前年比4.6%増)となった(図3)。これは、肉用牛や牛肉

価格が記録的高値にあったことで、生産者が子牛生産のために昨年まで経産牛を留保していたことによるとされる。州別に見ると、前年と同様に中西部のマットグロッソ州が最も多く、次いでパラ州(北部)、ゴイアス州(中西部)、ミナスジェライス州(南東部)、マットグロッソドスル州(中西部)の順となった。従来は、サンパウロなど大消費地のある南東部や南部を中心に飼養されていたが、これらの地域では生産コストが高く、また、中小規模生産者を中心に穀物生産などへの転換が進んだ結果、地価が安く広大な土地のある中西部や北部などでの飼養が拡大した(図4)。

図3 牛飼養頭数の推移

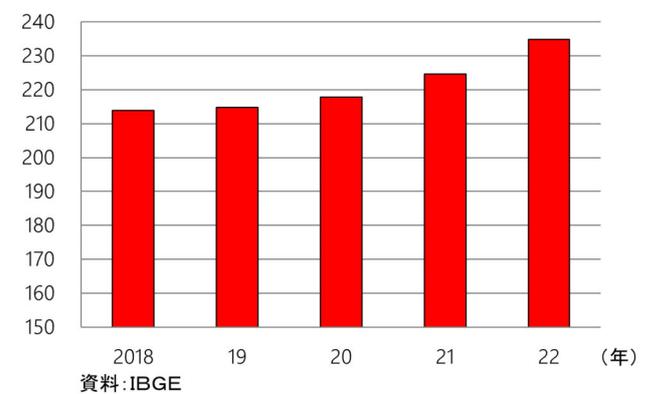
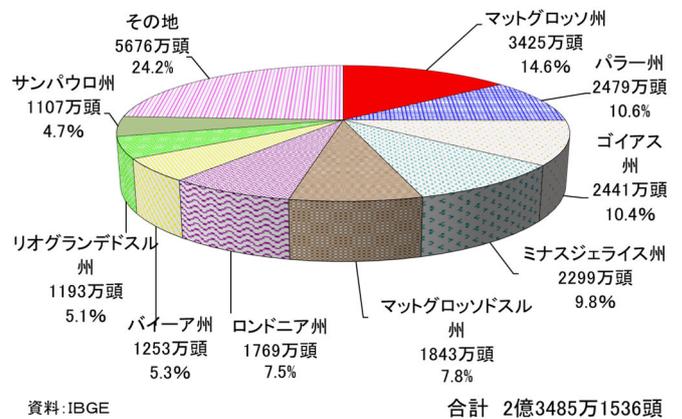


図4 牛の州別飼養頭数(2022年)



② 牛肉の需給動向

ア 生産

米国農務省(USDA)によると、2022年のブラジルの牛と畜頭数は4225万頭(前年比5.4%増)、牛肉生産量は1035万トン(同6.2%増、枝肉重量ベース)と3年ぶりに増加に転じた(図5)。18~19年に中国、香港など海外からの堅調な牛肉需要を背景に繁殖雌牛の淘汰が増加した結果、と畜対象となる

牛群が縮小したが、その後、牛群再構築が進んだことから畜頭数および牛肉生産量が増加に転じた。

図5 牛肉生産量および牛と畜頭数の推移

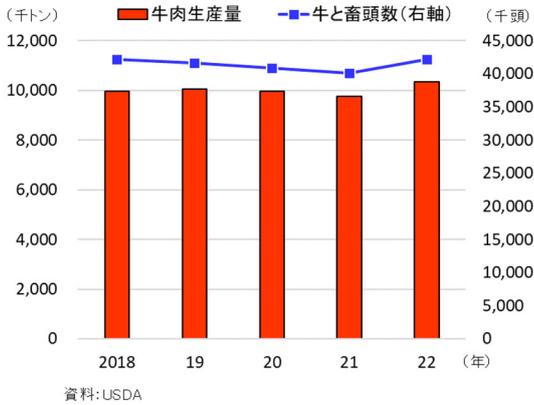


写真1 ゴイアス州の放牧風景

イ 輸出

ブラジル開発商工サービス省貿易局 (SECEX) によると、2022年の牛肉輸出量 (製品重量ベース) は199万1201トン (前年比27.6%増) と前年を大幅に上回った (表2)。

これは、海外からの堅調な牛肉需要を背景に輸出単価が高水準で推移したためである。このほか21年9月にブラジルで非定型BSEの発生が確認され、中国向け牛肉輸出が一時的に停止したことの反動も輸出量の大幅な増加につながった。

輸出先別に見ると、輸出量全体の6割を占める中国向けは、21年12月15日の輸出再開後、輸出が前年を大幅に上回って推移した。また、エジプト、アラブ首長国連邦向けは、ハラール牛肉需要の高まりなどを背景として大幅に増加した。

近年のブラジルの牛肉輸出は、アジア、中東などからの旺盛な需要により増加している。特に中国向けは12年の非定型BSE確認で停止後、15年6月に輸出再開して以降、著しい伸びを見せた。さらに、19年後半からは、中国のアフリカ豚熱発生による代替需要もあって、中国向け輸出は大幅に増加した。また、20年には新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大により中国の物流の停滞や外食を中心とした需要の落ち込みから輸出が一時的に減少したが、その後回復に転じ、年間では増加となった。

表2 輸出先別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2022年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (%)	輸出額 (%)	単価 (%)
中国	1,238,001	7,950,312	6,422	71.2	103.5	18.9
米国	88,713	446,210	5,030	3.4	▲4.1	▲7.3
エジプト	85,363	343,317	4,022	31.1	26.9	▲3.3
チリ	78,608	391,377	4,979	▲28.7	▲30.5	▲2.6
フィリピン	60,501	269,630	4,457	31.8	40.2	6.4
アラブ首長国連邦	56,010	260,045	4,643	17.6	23.0	4.5
イスラエル	38,354	241,971	6,309	13.1	31.4	16.2
その他	345,651	1,902,166	5,503	▲22.9	▲12.5	13.5
合計	1,991,201	11,805,027	5,929	27.6	48.2	16.1

資料: SECEX
 注1: HSコード0201 (冷蔵牛肉)、0202 (冷凍牛肉) の合計。
 注2: 輸出量は製品重量ベース。
 注3: 出典が異なるため、表3と数値は異なる。

ウ 消費

CONABによると、2022年の国内牛肉消費量は、573万6000トン (前年比3.1%減) と前年をやや下回った (表3)。近年の牛肉消費は、牛肉価格の上昇やCOVID-19の流行により減少傾向となったが、21年はCOVID-19の規制緩和などによりわずかに回復した。

22年の牛肉の年間1人当たり消費量は、28.2キログラム (同3.6%減) と前年をやや下回った。長期的に見ると、1人当たり消費量は減少傾向で推移しており、18年に35キログラム台であった消費量はその後減少し、20年には同9.3%減となり30キログラムを下回った。21年はその反動でわずかに増えた。

表3 牛肉需給の推移

(単位: 千トン、kg/人/年)

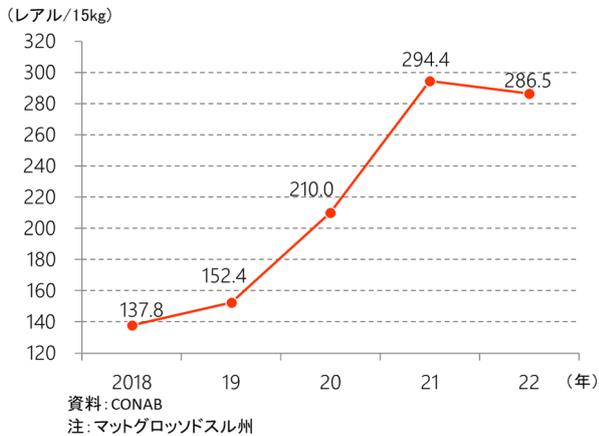
区分	2018	2019	2020	2021	2022
生産量	9,215	8,866	8,493	8,329	8,674
輸入量	47	50	63	71	81
消費量	7,067	6,433	5,865	5,921	5,736
輸出量	2,194	2,483	2,691	2,478	3,018
1人当たり消費量	35.5	32.2	29.2	29.3	28.2

資料: CONAB
 注1: 枝肉重量ベース。
 注2: 出典が異なるため、表2と数値は異なる。

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2022年の肥育牛平均価格（マツグロッソドスル州カンポグランジ市場）は、1アローバ当たり286.5レアル（前年比2.7%安）とわずかに下落した（図6）。19年以降は、海外からの堅調な牛肉需要を背景に価格の上昇が加速した。22年は、前年に続き海外からの堅調な牛肉需要、肥料、飼料などの生産コストの上昇、インフレの進行などにより高水準を維持したが、不透明な世界経済の状況などを反映し前年を下回った。

図6 肥育牛の生産者販売価格の推移



(2) 養鶏・鶏肉産業

ブラジルの養鶏・鶏肉生産は穀物生産が盛んな南部が全体の6割を占め、このほか中西部などで行われている。養鶏・鶏肉生産方式については、生産から流通まで一貫したインテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、BRF社、世界最大級の食肉企業であるJBS社および農協系最大のAURORA社などの企業がけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く価格優位性があることに加え、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が未発生（2023年5月まで）であり安定した供給が見込まれることから、同国は世界最大の鶏肉輸出国となっている。

① プロイラーの需給動向

ア 生産動向

CONABによると、2022年のプロイラー用ひなふ化羽数は68億5700万羽（前年比0.8%減）、鶏肉生産量は1478万3000トン（同3.0%減）といずれもこれまでの増加傾向から減少に転じた（表4）。これは、予想を上回るインフレの進行により国内消費が影響を受けたこと、生産コストが上昇したことなどが鶏肉生産に影響を及ぼしたためとみられる。

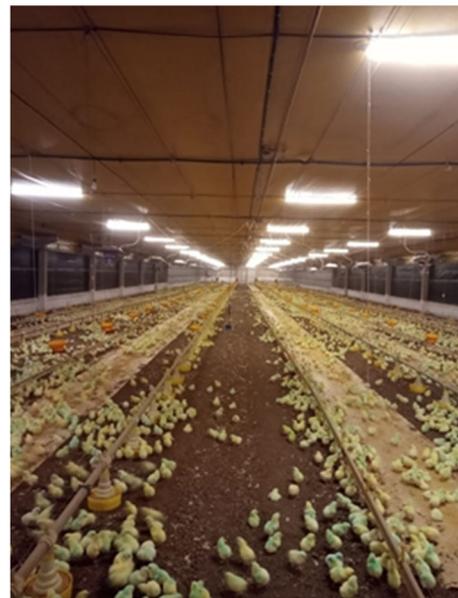


写真2 パラナ州の肉用鶏生産農家の鶏舎内

表4 鶏肉需給の推移
(単位:百万羽、千トン、kg/人/年)

区分	2018	2019	2020	2021	2022
ひなふ化羽数	6,064	6,459	6,810	6,912	6,857
生産量	13,289	13,936	14,683	15,233	14,783
輸出量	4,018	4,175	4,125	4,468	4,653
1人当たり消費量	46.6	48.9	52.6	53.3	49.9

資料: CONAB

注: 輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ 輸出

SECEXによると、2022年の鶏肉輸出量は436万6618トン（前年比3.9%増、製品重量ベース）と前年をやや上回り、2年連続で増加した（表5）。これは、米ドルに対するリアル安の進行、アジア、EU、北米などで発生したHPAI、ウクライナ情勢などにより同国産鶏肉の需要が高まったためである。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは、鶏肉輸入単価の上昇やCOVID-19規制に伴う保管冷蔵庫の一時的な閉鎖などにより減少した。一方、アラブ首長国連邦向けは、経済成長や人口の増加に伴う鶏肉需要の増加や再輸出先である近隣諸国からの需要増により増加し、日本を抜いて第2位の輸出先となった。

表5 輸出先別鶏肉輸出(2022年)

区分	2022年			前年比(増減率)		
	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	539,682	1,343,376	2,489	▲15.6	5.6	25.0
アラブ首長国連邦	442,955	947,429	2,139	▲13.9	37.3	20.5
日本	410,609	943,892	2,299	▲6.3	13.5	21.2
サウジアラビア	340,128	843,701	2,481	▲3.8	30.2	35.3
南アフリカ	283,353	187,008	660	▲4.3	▲9.8	▲5.8
フィリピン	244,911	284,523	1,162	45.8	86.6	28.0
韓国	185,377	407,202	2,197	63.0	99.5	22.4
その他	1,919,603	3,735,999	1,946	6.3	31.4	23.6
合計	4,366,618	8,693,131	1,991	3.9	26.9	22.2

資料: SECEX

注1: HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2: 輸出量は製品重量ベース。

注3: 出典が異なるため、表4と数値は異なる。

ウ 消費

CONABによると、2022年の鶏肉の年間1人当たり消費量は、49.9キログラム（前年比6.4%減）と前年をかなりの程度下回った（表4）。これは、同国内の鶏肉供給量の減少から価格が上昇したこと、また、インフレの進行により消費者の購買力が低下しやことや、代替としてより安価な鶏卵の消費量が増加したためとみられる。

②ブロイラーの価格動向

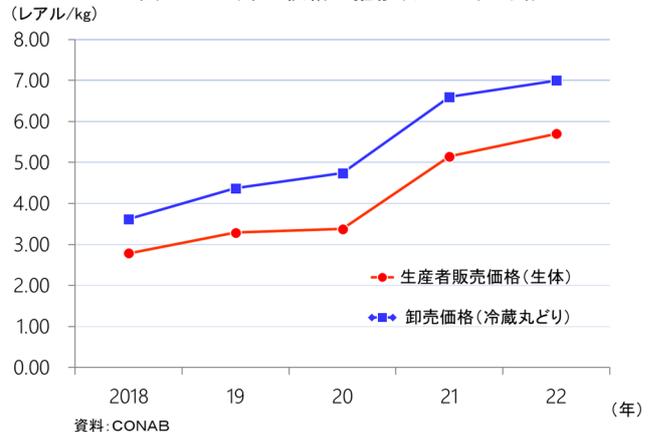
ア 生産者販売価格

CONABによると、2022年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり5.70リアル（前年比10.7%高）と前年をかなりの程度上回る高水準となった（図5）。これは、ブロイラー生産コストの約7割を占めるトウモロコシや大豆かすなどの飼料費が年間を通じて高値となり生産コストが上昇したことに加え、インフレが進行したことなどが要因とみられる。

イ 卸売価格

2022年の冷蔵丸どりの卸売価格（サンパウロ州）は、生産者販売価格の上昇を反映して1キログラム当たり7.0リアル（前年比6.9%高）と前年をかなりの程度上回る記録的な高値となった。これは、ウクライナ情勢や米国でのHPAI発生により鶏肉の国際需給がひっ迫したことや、生産コストの上昇などによるものとみられる。しかし、鶏肉価格の高騰により消費者の需要が減退したことなどから、同年終盤には価格が下落傾向に転じた。

図7 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)

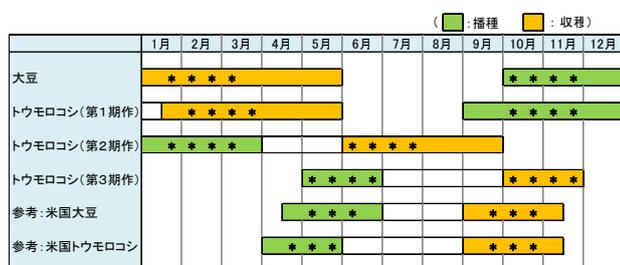


3 飼料穀物

ブラジルの2022/23年度（3月～翌2月）のトウモロコシの生産量は米国、中国に次いで世界第3位、22/23年度（10月～翌9月）の輸出量は前年度にブラジルより上位にあった米国、アルゼンチンを抜いて第1位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第1期作）と冬作（第2期作、第3期作）の年3回行われる（図8）。22/23年度（10月～翌9月）の第1期作はミナスジェライス州（南東部）、第2期作はマツグロソ州（中西部）、第3期作はバイーア州（北東部）がそれぞれ最大の生産州であった。伝統的にトウモロコシ生産が盛んな南部3州（パラナ州、サンタカタリーナ州、リオグランデドスル州）での生産量は国内全体の18.8%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マツグロソ州、マツグロソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区）の生産量は同58.7%となり、前年度より1.9ポイント増加した。

図8 ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料: CONAB, 米国農務省 (USDA) に基づいて機構作成
注1: 主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。*印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

① 主要な政策

ブラジル連邦政府は、MAPAが管轄する農業部門に対し、2022/23会計年度（7月～翌6月）は過去最大規模となった前年度を大幅に度上回る3409億レアル（前年度比35.7%増）の予算を措置した（表6）。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産技術の向上・競争力の強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

（単位：億レアル）

農業年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23
総予算額	1,911	2,227	2,363	2,512	3,409
営農・販売融資	1,511	1,693	1,794	1,778	2,463
投資融資	400	534	569	734	946

資料: MAPA

このうち、営農・販売融資に対して2463億レアル（同38.5%増）が予算措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に要する経費を対象としており、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎とした農畜産物の担保として行われる。

一方、投資融資については、946億レアル（同28.8%増）が予算措置された。当該融資は、ほとんどの場合、MAPAが管理し、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行（BNDES）が融資を行う。例えば、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム（ABC+、予算額62億レアル）があり、具体的には、（1）有機農業プログラムへの適応（2）牧草地の回復（3）農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入—などを奨励している。このほか、農業用トラクターおよび収穫機などの近代化プログラム（Moderfrota、予算額102億レアル）、倉庫建設・拡張プログラム（PCA、予算額36億レアル）などが盛り込まれている。

② 飼料穀物の需給動向

2022/23年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産量は、1億3189万トン（前年度比16.6%増）と前年度を大幅に上回り、21/22年度の記録を更新し過去最高となった。（表7）。

これは、堅調な国際価格を反映して作付面積が前年度から増加したことに加え、ほとんどの地域で天候に恵まれ単収が前年度を上回ったためである。

また、トウモロコシ輸出量は5463万4000トン（同17.2%増）と前年度から大幅に増加し、国内消費量は食肉産業からの需要を背景に7959万9000

トン(同6.8%増)と前年度をかなりの程度上回った。この結果、当該年度の期末在庫は706万8000トン(同12.7%減)と前年同期をかなり大きく下回った。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

区分	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23
期首在庫	14,559	13,187	15,312	13,515	8,096
生産量	100,043	102,586	87,097	113,130	131,893
輸入量	1,596	1,453	3,091	2,615	1,313
供給量	116,198	117,226	105,500	129,261	141,302
消費量	61,937	67,021	71,169	74,535	79,599
輸出量	41,074	34,893	20,816	46,630	54,634
需要量計	103,011	101,914	91,984	121,165	134,233
期末在庫	13,187	15,312	13,515	8,096	7,068

資料: CONAB

2022/23年度(10月~翌9月)の大豆の生産量は1億5461万トン(同23.1%増)と前年度を大幅に上回り、20/21年度の記録を更新し過去最高となった(表8)。これは、堅調な国際価格を反映して作付面積が増加したことに加え、干ばつによる深刻な水不足に見舞われた南部リオグランデス州を除いたほとんどの州が好天に恵まれ、単収が大幅に増加したためである。

ブラジルにとって主要な輸出品目である大豆の輸出量は、生産量の増加から1億186万3000トン(同29.4%増)と前年度を大幅に上回り1億トン台に達した。

表8 大豆需給の推移

(単位:千トン)

区分	2020/21	2021/22	2022/23
期首在庫	4,221	9,347	5,962
生産量	139,385	125,550	154,610
輸入量	864	419	181
種子/その他	3,050	2,862	3,337
輸出量	86,110	78,730	101,863
加工量	45,963	47,761	52,255
期末在庫	9,347	5,962	3,298

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2022年のトウモロコシ生産者価格(サンパウロ州)は、3月まで前年同月を上回ったが、4月以降前年同月割れとなり、60キログラム当たり83.7リアル(前年比4.5%安)と前年をやや下回った。しかしながら、年平均価格は、国内外からの堅調な需要を反映して高水準を維持した(表9)。

また、同年の大豆生産者価格については、国内外からの堅調な需要により同174.6リアル(同10.3%高)と前年よりかなりの程度上昇した(表10)。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2018	2019	2020	2021	2022
生産者販売価格	34.0	35.0	52.8	87.7	83.7

資料: CONAB

表10 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2018	2019	2020	2021	2022
生産者販売価格	72.6	72.1	107.6	158.3	174.6

資料: CONAB